

ラドヤード・キプリング

4 マインピットの森のバラッド

(『ごほうびと妖精たち』の「正義の木」より)

飲み屋が閉まるころ

もうビールが買えなくなるころ

二人の若者が 森番の小屋へと登っていった

ペラム旦那の鹿を盗みに

あたりは夜の暗闇 おまけに酒が頭に回り

5

笑うわ 喋るわで 大騒ぎ

眠りを邪魔された森番らは

成敗せんと猟犬を放った

二人は すでに雄鹿を殺し 雌鹿を殺して

まさにとんずらすところ

10

そのとき 風上からくんくん鳴く声が出て

猟犬がわんわん吠えるのが聞こえた

弓を手に持って

若者二人は 羊齒^{しだ}の茂みを逃げた

やがて 緑の提灯^{ちようちん}をもった男に出会った

15

男は言った 「おい 止まれ

「何をしている お前たち

それにお前たちの魂胆は何だ

マインピットの森に 忍び込み

妖精たちの眠りをさまたげるとは」

20

「俺たち ペラムの旦那の荘園に押し入って

旦那の鹿を殺したんだ

犬っころが吠えるのを聞いたのなら

どうしてここへきたか 分かるうものを

- 「頼む このまま 行かせてくれ
早いとこ 逃げたいんだ
ブラッドハウンドの吠える声が聞こえたら
どんなにあせっているか分かつもの」 25
- 「それなら弓をこの土手において行け
手からナイフを離せ
猟犬がお前らのわき腹を襲おうものなら
その場ですぐに助けよう」 30
- 若者二人は 弓を土手に置いた
ナイフを森の奥に投げ込んだ
すると目の前の地面が ぱっくり開いて
墜ちた二人は助かった 35
- 「おお 耳にがんがん響く あの音は何だ
耳がおかしくなるほどの でかい音は」 40
「おお あれはものが現れる時の
その時の音だ」
- 「俺たちの 目の前の星は何だ
目がくらむような あの星は」
「おお あれはものが立ち上がる時の
その光だ」 45
- 「どうして俺たちのベッドは骨にさわるほど固いんだ
冷たい部分は別として」
「おお それは宝石のベッドだからだ
金の部分は別として」 50
- 「この場でとくと考えてみな
そうすれば教えてやろう
妖精の国でなけりゃ ここはどこ
ルーイスの監獄でないことだけは確か」
- 一晩中 二人は思案した
夜明けになって 分かつことは 55

二人とも 大きな古い穴に転がり落ちたんだ
マインピットの森の底までも

森番の猟犬も ここまで追ってはきたが
同じ穴に落ちた拍子に首の骨を折った 60
そこで二人はナイフと弓を拾い上げ
犬を埋葬してやった これでお終い

しかし 一体緑の提灯を持った男も密猟者だったのか
それとも勇敢な妖精だったのか
世の中 うそでかためた話も多いが 65
うそにもまこともあるものよ

(榊井幹生訳)